

「ゴギナーは救世主?!」

# 労働力不足解消への道

## リンゴ園の風景を守る鍵



実りの秋。岩木山の紅葉とともに、たわわに実ったリンゴ畑の風景は、市町村別生産量ナンバーワンの名にふさわしく、どこまでも広がっていて美しい。

しかし、農業を取り巻く環境は、高齢化や補助労働力不足を背景に栽培面積の減少も軽視できない状況となってきた。飛馬ブランドと、この風景を我々産地が守っていく上で、労働力不足解消に向けた取り組みは急務である。

今回は、当JAが取り組んだ、本年の補助労働力確保対策について特集する。



有力

1日農業バイトアプリ

【day work】(有償)

昨年10月から弘前市が県内初動となったデイワーク。弘前市内のマッチング件数はなんと1,519件(本年9月末時点)！そのマッチング率は80%と非常に高い水準となっている。

デイワークの最大の特徴として、求人者と求職者を1日単位で結び付けることが挙げられる。これまで数週間単位で連続した雇用が当たり前であったが、地域に住む方々が自分の休日を利用して手伝ってくれるようになっていくほか、本業を持つている方々さえも、副業として

農業を手伝っている状況が伺える。

さらに、求職者登録に今まで参入が少なかった20代や大学生が多く利用している点も、大きな特徴の1つ。スマートフォン普及により、アプリで仕事探しを完結させる時代へ突入していることが、背景として伺える。

一方、求人者は求職者と直接やり取りができることでタイムラグなしにマッチングを図ることが出来るようになった。雇用契約書の問題はありますが、急募であっても、数時間でマッチングした実績があるなど非常に魅力的なアプリだ。また、1回のマッチングにより、

同じ人が継続的に応募してくれた実績も見えている。

現在に至るまで、求人側については作業経験者を求める声が多かったのも事実。求職者における作業経験者が非常に少ない中で、初心者の育成を図りながら雇用を進める求職者が増え始めているのが現状だ。求職者の新たな探し方、初心者育成など、受け入れる側の対応を多様化させることで、労働力不足解消に向かうはずだ。デイワークは、求人者数よりも求職者で溢れているのだから。



農福連携事業 (有償)

障がい者就業の拡大と、農業の労働力確保を目的に、県が主体となり進めている農福連携事業。本年は、相馬地区で計5回、15日間に渡って事業を展開した。

桐の木沢地区の株式会社シャンティは、独自で2年前からリンゴ

県主催の現地検討会にて、園主への感謝を伝える『さくらの杜』取締役の相澤直人さん



作業に障がい者の受入れを実施。従事している福祉事業所『さくらの杜』は、個人のペースに合わせてながら根気よく作業について教えてきたことや、弘前の基幹産業であるリンゴ作業のスキルを身に着ければ、いくらでも仕事ができると話す。実際、その作業の様子は丁寧かつスピーディーで、頼れる戦力となっていることが伺い知れた。また実際に2名リンゴ園に就労することができたことを話し、作業を体得した利用者にぜひ来てほしいという農家の要望に人手が追いつかないほど好評だそう！

皆さんも、障がい者のことも考えながら、雇用を受入れてみませんか？

### JAL「空飛ぶ農業応援活動」 (有償)

JAL767運航乗務部の方々が、減便によりできた時間を活用して、リンゴ作業の人手不足解消を図ろうと、一昨年から農業応援活動を実施。現在では運航便数がほぼ回復しているが、業務の合間を縫って、引き続き青森へ援農活動に訪れてくれている。パイロットらは様々なリンゴ作業を手伝い、受入れ農家が大絶賛している。また、私たち産地にとっては、通常生活しているだけでは知りえない業界や旅先の話も聞けることも魅力だ。毎年10月頃から活動を実施しており、一人でも多くの方に受入れしていただきたい活動のひとつだ。

### JAL「空飛ぶ学生ボランティア」 大学生アグリアシスト (無償)

ツアーなどの企画をするJAL地域事業部が首都圏の学生に収穫体験などを手伝ってもらうことで、都市と地域を定期的に行き来する仕組みを作ろうとしている。JA青森中央会を筆頭に、県内では当JAが本年、初めて受け入れた。今回は6名の大学生が相馬地区を訪

れ、リンゴ作業の様子だけでなく、山々の紅葉や津軽の郷土料理「いがめんち」などをSNSに投稿し、地域の情報発信にも取り組んでいただいた。

今年も試験的に取り組みを開始したものの、受け入れ農家からも好評だったことから今後も継続していく見込みだ。

### 企業援農ボランティア (無償)

地元企業及び団体の方が、休日を利用して援農ボランティアを実施。当JAにおいては毎年11月上旬に受入しており、収穫時期に単発的な援農をして頂いている。援農人数は毎年40人前後と多く、無償とはいえっても農家は袋いっぱい詰めたリンゴで御礼にあたっている。

「昨年もらったリンゴが人生で一番美味しくて、今回は関東に住む妻も一緒に手伝いに来たんですよ」

大学生ボランティア、SNSの投稿に「私も行きたい!」との反応もあったそう



と笑顔で収穫作業をするご夫婦もいた。

皆さんもぜひ、企業援農者を受入れてみませんか？



本年、補助労働力確保事業を通して一番感銘を受けたのは、一度援農で訪れた方が休みなどを利用して、個別に園地に来られるなど、関係が継続していることです。相馬の農家さんのあたたかさが、一番の地域おこしになっていると感じました。当JA農業振興課で、いつでも受入れ希望承ります。ぜひ援農事業受入れをしてみてください！次頁では事業に携わる方の生の声をお伝えします。



### 社内でも近所でも自然と出るようにリンゴの話が

小山 浩司  
日本航空株式会社運航本部  
767運航乗務部 副操縦士

きました。去年の春から、援農活動が地方創生やSDGs（住み続けられるまちづくりを）陸の豊かさを守る（こ）と親和性があるとして、業務の都合はあるにしても、活動はより進めやすくなりました」

「都心ではリンゴは赤！というイメージがまだあって、トキや名

月は遠慮がちに店頭にならんでいます。それでも

割と普通のスーパーでも売ることができて

て、『あそこのスーパーにトキが売ってたよ』

と近所の方が教えてくれることもしばしば。そんな会

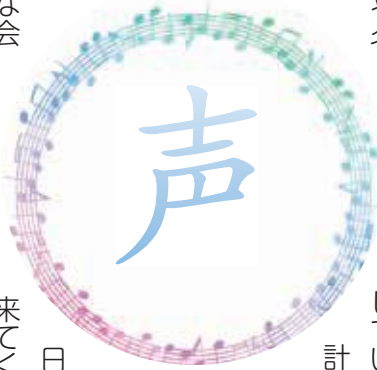
話が増えてきたのも、本場青森のリンゴを周囲の方に毎年お裾分け

しているからだと思います。自然と普及活動になっているのかな」

桐の木沢地区に本社を構える株式会社シャンティは、リンゴ作業

に、就労継続支援A型の福祉事業所『さくらの杜』から就労者を受

「私たちB767型機の運航乗務員の中では、大分認知度が上がって



け入れている。同社営業部の宇野さんに話を伺った。

「まだ当時は農福連携という言葉も知りませんでした。2020

年6月から受入れを始めました。きっかけは、弘前市りんご公園で

福祉事業所の方による袋かけ体験が行われるという情報を、JAから

聞き参加したことです。受入れをしていて一番良かったことは、

計画的にりんご作業ができていくこと。以前は

どうしても遅れがちになっていて、雪が降る

前に慌ててもぐことが多かったのですが、毎

日6〜7名が作業をしに来てくれるので、驚くほど進

捗が見えて助かっています。作業日には、福祉事業所

の職員の方が必ず帯同してきてくれるので、労災面や教

育面はもちろん、個々のペー

スの違いに関しても、今まで困ったことはありません」

今後、福祉事業所利用者のやり甲斐や生き甲斐の創

出と、農業の人手不足解消が進んでいくことを期待したい。

■ ■ ■ 農業初心者を受入れる負担や不安はあるかも知れないが、受入れ

した側・された側の1人1人に話を聞くと、それ以上のメリットがあると感じた。

これから先、私たち産地全体でリンゴ作業ビギナーを受け入れ、

その実力の底上げと、絆作りに励んでいくことで、地域農業の道は

開けて行くにちがいない。

宇野 訓  
株式会社シャンティ営業部  
(精神保健福祉士)



驚くほど作業が進んで助かっている